

主な内容

- ・神戸山手学園 80 周年
- ・養老孟司先生を囲むシンポジウムより
- ・学園祭のお知らせ



# 神戸山手通信

神戸山手学園広報準備委員会 <http://www.kobe-yamate.ac.jp>  
 〒 650-0006 神戸市中央区諏訪山町 3 - 1  
 tel 078(341)6060 <mailto:somuka@kobe-yamate.ac.jp>

11月6日・7日

神戸山手女子中高等学校  
オープンキャンパス

11月13日・14日(諏訪山祭)

キャンパス見学会  
ホームカミングデイ併催!

第四十四回

諏訪山祭!

十一月十三・十四日

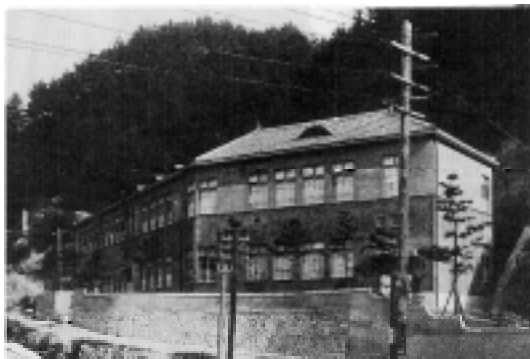
今年のテーマは「山手魂」!



アメリカ人女性教師・シャーロット・J・スミスが設立当初に考案した制服。デザインは現在もほとんど変わっていない。



短大・生活学科による海外生活文化研修。世界的にトップクラスの学校におけるファッションやインテリアデザインの講習参加、イタリア料理の講習・実習、美術館見学、現地大學生との交流などを行っている。



昭和3年に落成した神戸山手高等女学校・北館。

昭和十三年には阪神大水害、昭和二十年には神戸大空襲といった災害の影響を蒙り、校舎も損壊を余儀なくされるが、戦後になると、新制の神戸山手女子中学校、神戸山手女子高等学校として生まれ変わり、短期大学の前身である神戸山手女子専門学校も戦後すぐに開校されている。

その後、平成七年には山手学園を襲った三番目の大災害、阪神淡路大震災の被害に遭った。震災により大西理事長を失うも、学園の建造物、学生・生徒、教職員は無事で、校舎が避難所として利用されたり、体育館では小沢征爾指揮によるオーケストラが鎮魂のための演奏をしたりした。

平成十一年には神戸山手大学環境文化学



神戸山手女子高等学校音楽科のレベルの高さは超高校生級だという定評があり、2004年10月28日の第36回定期演奏会ではモーツアルトの「交響曲 第40番 ト短調 K.550」などの難曲・大曲を扱った。(写真は2003年11月に神戸文化ホールで行われた第36回定期演奏会)

祝・神戸山手学園創立 八十周年!

神戸山手大学は今年で創立五十目を迎え、神戸山手短期大学は設立五十四年目を迎えた。しかし両校の母体となった神戸山手女子中・高等学校(山手学習院)は今年で八十年。山手は県下でも有数の伝統校なのである。

今から八十年前の大正三十三(一九二四)年と言えば、甲子園球場が竣工した年、つまり、神戸山手学園と甲子園球場は同じ年なのである。

高等女学校への進学希望者が増えているのに、受け入れる学校の数が少ない...泣く泣く進学をあきらめる生徒が多いのを見るに忍びなかつた当時の山手小学校の校長・杉野精造らは、大正十三年に山手学習院を設立する。

神戸山手学園は特定の宗教や個人による設立ではなく、第三代校長・多田徳助の言葉にあるように、「官公立デモナケレバ、一人ノ経営デモナク、真個ノ公共民庶ノ学校」であることと「大特徴として発展してきた。建学の精神は「自学自習」「情操陶冶」であり、これは今日でも山手学園の教育のいたるところで受け継がれているのが確認できよう。

科が開学。平成十四年には大学が男女共学になり、平成十六年には短期大学も男女共学となり、新しい時代へ突入した。平成十八年三月には学園創設以来、初めての男子卒業生を社会に送り出すことになる。

今に生きる建学の精神  
「自学自習」「情操陶冶」



## 神戸山手大学・短期大学 ホームカミングデイ

(第44回 諏訪山祭併催)

11月13日 11:00 演奏ホール(音楽棟2階)

13:00からは各学科ごとにさまざまな催しを用意しています。

生活学科：1409教室      英語文化学科：1102教室      日本語・日本文化学科：1503教室  
 表現芸術学科：4号館談話室      環境文化学科：1314教室      旧教養学科の卒業生は1314教室にお集まりください

思い出のキャンパスで、懐かしい友人たち、先生方とのひと時を過ごしてみませんか?

お問い合わせは 078(341)6060 へ

環境と教育をめぐる養老孟司先生の講演会 大聴衆の中で行われる



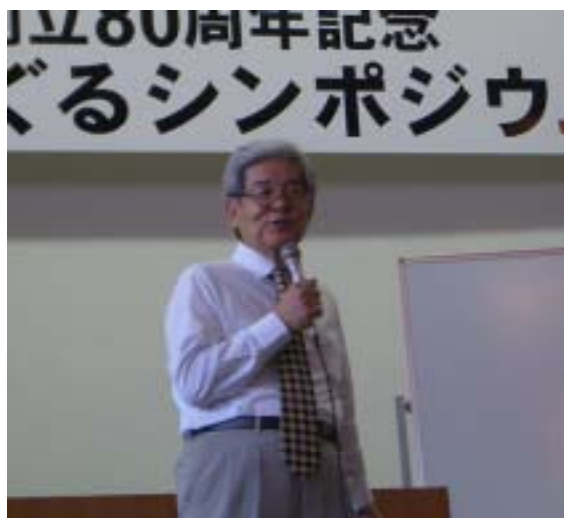
体育館に集まった1500人が熱心に養老先生の話に聞き入った。

大聴衆の中で

神戸山手学園の創立八十周年を記念して行った養老先生の講演会は、当初、神戸山手女子中等学校の講堂で行う予定であったが、参加者募集の八ガキが殺到し、急遽、場所を神戸山手大学・短大体育館に移した。十月二日、天候には必ずしも恵まれなかったが、開会時間が近づくにつれ、体育館の一階席はもちろん、臨時増設された二階席も満員状態となった。約一時間半に渡る養老先生の講演は時にユーモアも交えながらも、現代の環境問題、そしてそれと密接に関わる人間の問題、とりわけ教育について鋭い問題を提起した。

環境に対するラジカルな問い

「環境と教育をめぐるシンポジウム」というタイトルからすると、いわゆる環境教育の方法についての話だと思われるかもしれないが、養老先生の投げかけた問題はもっとラジカル。「過激」にして、「根源的な」問題をはらんでいた。人間が環境などをいじれるわけがない。「ああすれば、こうなる」と思い込み、信じ込むのは人間の脳の悪い癖で、自然のシ



「最近、本当に虫が減ってきました」と養老先生。

ステムというのはそれほど単純にできてはいない。例えば、農作物に農薬や肥料を大量に使えば、簡単に収穫ができるようになるが、他の生態系や人体に及ぼす影響は計り知れない。それでは全く使わないのがいいかと言うと、それでは満足に農作物が育たない。要は絶えず「手入れ」をすることによって、バランスの取れた関係を継続することなのだ。同じように、子供だつて「ああすれば、こうなる」というほど単純な存在ではない。大切にすぎても、突き放しすぎてもうまくは育たない。誉めてみたり、叱つてみたりしながら、辛抱強く「手入れ」をすることによってしか、いい子供に育てる方法はない。神戸山手大学では「環境文化」について学生に教えながら、教員たち自身も「環境文化」について自らに問うてきた。確かにリサイクルやゴミ問題、地球の温暖化等々のいわゆる環境問題についてきちんと認識することは重要だが、それだけで環境問題が解決するとは考えにくい。そこで文化の問題として環境を捉える必要が出てくるわけだが、目的は未だに見つけ出すことができていない。ただ、養老先生の講演は、そんなわれわれスタッフにも啓示と勇気を与えてくれるものであったと思う。

本学教員とのシンポジウム

神戸山手大学のアンディ・ペインター助教（文化人類学）は、日本のテレビ局でのフィールドワークによって学位を取得し、学生たちにもフィールドワークを実践させているが、教室外での環境教育の具体策について問題を提起した。

養老先生は頭の中に知識を溜め込んで、わかつた気になるのが問題で、自分の身体を使って経験することが何よりも大事なのではないかと答える。「評価」を下すことは難しいが、そんな体験をさせることは、教育者の大切な役目なのではないかと言う。神戸山手短期大学の渡辺卓也専任講師（天文学）は、人間が簡単に把握することができない星の世界について研究・教育している立場から、身近でないこと、目に見えないことについて配慮することの大切さについて語った。

養老先生は、まず、自分にはわからないことがたくさんあることを認識すること。しかし、それを少しでも分かろうと近づいていく姿勢が大切なのではないかと応じた。神戸山手女子中学校の魚野隆教諭（英語）は、ヒトの言語能力は生得的であり、さらにヒトの能力全般が生得的であるとするなら、教師とは一体何なのか、教育とは一体何のためにあるのか、と問う。

養老先生は「読み書きそろばん」と言われる基本的な技術を教えることは教育の大事な役目だが、他人がどのように考え、どのように生きていくかを「わかる」ようになること、ここに教育の最大の目的があるのだと答えた。

司会の小森星児・前神戸山手大学長（地理学）は、環境というものを人間にとって対象であると考えるのが欧米流、環境の中に自らを置くのが日本流だとして、相手の論理に従いながら「手入れ」（ケア）を行っていくことの大切さと可能性について、つまり環境と教育とは同じことの二つの側面ではないかとし、シンポジウムを締めくくった。

ここで交わされた議論の「成果」は、それぞれ教員が、これからの山手学園の教育の中で出していくことである。

第44回 諏訪山祭

11月13日・14日

山手魂

吉本お笑いライブ 楽笑  
13日 2丁拳銃、ダイアン  
14日 たむらけんじ、笑い飯、千鳥

山手でPon!  
Mr. and Miss コンテスト  
表現芸術学科・生涯学習センター受講生 作品展

その他にも企画は盛りだくさん!

詳しくは 078(341)8550まで



「環境と教育をめぐるシンポジウム」では、それぞれの専門分野を背景にした議論が展開された（右から小森星児・前神戸山手大学長、養老孟司先生、アンディ・ペインター・神戸山手大学助教、渡辺卓也・神戸山手短期大学専任講師、魚野隆・神戸山手女子中学校教諭）。